

### 採択条件

- ・ 先進的な記述内容が分かりにくいので、具体的に記載すること。
- ・ 定員充足率が低迷しているが、対策を検討すること。また、上進実績に基づいた見通しを計画書に明記すること。
- ・ 「教えないで学べる」や「タキシノミーテーブル」等、分かりにくい言葉が多く使われており、どのようなシステムなのか分かりにくい。教えないで学べる学修環境の整備とは、ただ e-Learning の教材を渡すことだけなのか。具体的にどのようなことが、教えないで学べる学修環境になるのか、分かりやすい言葉で示すこと。
- ・ 現職教員の研修なので、学習者同士のコミュニケーションを促すことは重要である。そのコミュニケーションの在り方を研究し、開発するということが記されているが、具体的にどのような研究を進めていくのかが不明であるため、明記すること。

### 評価コメント

- ・ キャリア、ミドルの育成を意識し、幼児教育コーディネーターにつなげようとしている点を評価する。
- ・ 講習科目「遊びと文化Ⅰ」「保育内容(表現)」が、実技修にならないよう気を付けていただきたい。
- ・ 「遊びと文化Ⅱ」の概要を読むと、幼児の作品の評価方法を学ぶようにとれてしまうが、評価をどのように捉えているのか、ご説明いただきたい。
- ・ 成果目標の指標が明示されており、自己評価と外部評価による評価システムはモデルとなると感じた。
- ・ 幼稚園関係団体との連携・協力を得て、より広く教員の実態・ニーズの把握が進むことを期待する。
- ・ ミドルリーダーや幼児教育コーディネーター育成の目標に向けた講習内容としては、園運営のための組織づくりやカリキュラムマネジメントなどの講習内容や手法が必要ではないか。
- ・ 沖縄県との連携で、沖縄の教員が受講できるシステムとなっている点は評価できる。
- ・ 幼児教育コーディネータの養成カリキュラムとして位置付け、専門性の向上を図ろうとしている点も評価できる。
- ・ 講習の「遊びと文化Ⅰ・Ⅱ」は、科目概要に、折り紙や動くおもちゃ、確かな作品ができるか等の具体的な記述があり、「領域の表現」に重きが置かれているように感じるが、その場合「領域表現」や「保育内容(表現)」という科目になるのではないか。遊びも文化もとても幅広いものであるので、科目の概要にも誤解が生じないよう整合性を図っていただきたい。
- ・ 開設する認定講習のうち、「幼児理解」「教育相談Ⅰ」は「講義」となっているが、現場の実践の中で、たくさんの事例をもっている現職教員なので、そうした実践と理論の往

還が図れるよう、グループワークやディスカッション等を組み込んだ「講義・演習」型となるような工夫を検討いただきたい。

- ・経費のなかに、開設する講習担当者の謝金がないようだが、計上しなくても良いのか確認いただきたい。

#### 事務局より

- ・誓約書について、生年月日が明らかとなる資料も添付すること。
- ・「9.経費項目の積算」について、過去のものを使用していると思われるので、今年度の様式で再提出すること。
- ・本事業については、講習実施大学と自治体や国公私の幼児教育関係団体との十分な連携の上での事業実施に効果が認められるとともに、各地域・団体等とのニーズに合った講習内容・手法の工夫が期待される。特に、講習実施大学が受託している場合には、自治体の幼児教育担当部局との一層の連携の充実を図ることが重要であることから、令和5年度事業終了後も見据え、自治体をはじめとする関係者との一層の連携に取り組むこと。
- ・事業終了後に、受講者にアンケート調査を行い、事業成果の把握に努めること。
- ・テーマ1の「オンライン・オンデマンド型を活用した効果的な講習等の開発・実施」を選択する場合には、その講習の内容については、受講者が受け身の姿勢で学ぶのではなく、双方向型・対話的な指導方法となるよう検討・工夫し、調査研究としての成果の蓄積に努めること。